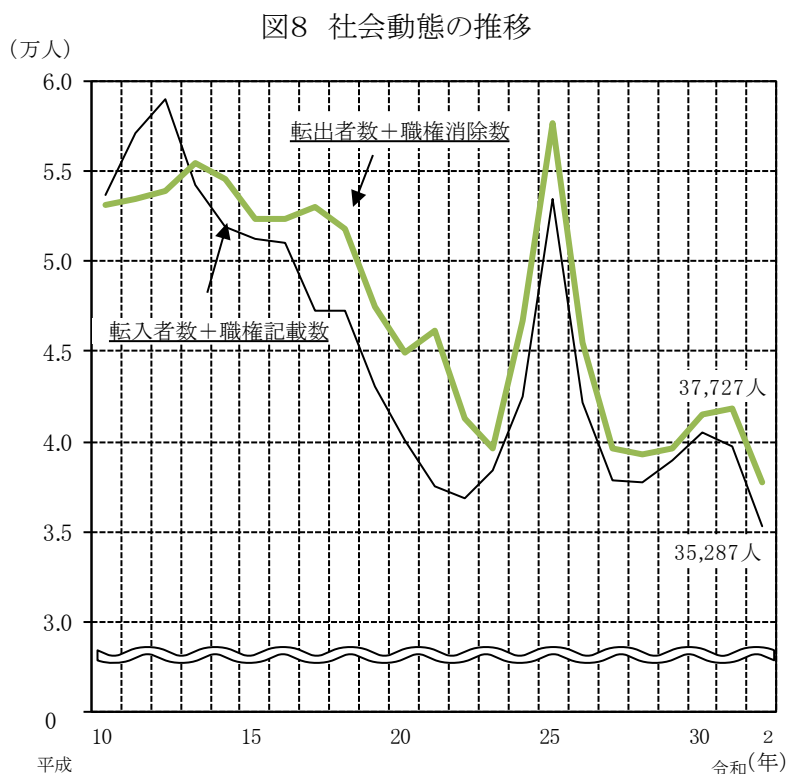


## 4 社会動態

令和2年中の社会動態をみると、県外(国外を含む)からの転入者数は33,687人で前年に比べ4,636人減少し、県外(国外を含む)への転出者数は35,435人で前年に比べ4,034人減少となりました。この結果、届出者数でみると、転出者が転入者を1,748人上回り、転出超過となりました。

このほか、その他増減(職権による記載、消除)が692人減少し、これを加えた社会動態は2,440人減少しています。

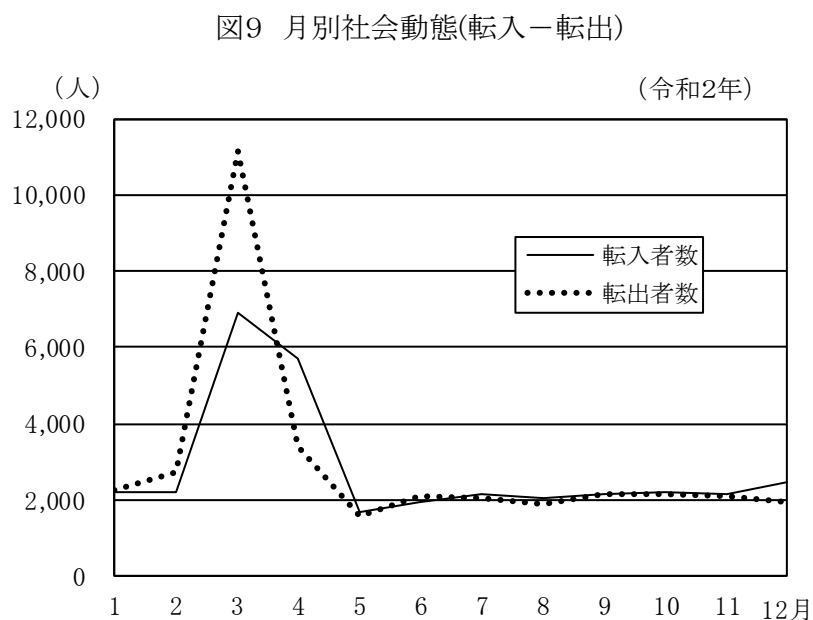
図8では、届出のあった転出入者にその他増減を加味した数値を示していますが、平成13年からは20年連続して社会減となっています。(図8、5ページ 表2)



### 3月は転出超過、4月は転入超過

令和2年の各月の社会動態をみると、就学や就労等による異動が多い3月と4月にかけて、転入者数、転出者数がともに多くなっています。(図9)

また、7月以降は、転入者数が転出者数を上回る転入超過が6か月続いています。



社会増加 25市町村      社会減少 51市町村      増減なし 1村

社会動態を市町村別にみると、25市町村で社会増加、51市町村で社会減少となっています。

社会増減率が最も高いのは、南相木村の3.52%で、以下 軽井沢町2.97%、南牧村2.82%の順となっています。一方、最も低いのは、白馬村の△8.25%で、以下 小谷村△5.96%、野沢温泉村△5.13%の順となっています。(6ページ 表3)

## 転入者数、転出者数ともに東京都が最も多い

転入者の従前地をみると、東京都が 19.9%で最も多く、次いで国外が 13.3%、以下、神奈川県、愛知県、埼玉県、千葉県の順になっています。

転出者の転出先をみると、東京都が 20.8%で最も多く、次に国外が 11.7%、以下、神奈川県、埼玉県、愛知県、千葉県の順になっています。従前地の 40.6%、転出先の 43.1%が東京圏となっています。（表6）

表6 都道府県別移動者割合（令和2年）

順位	転 入 者			転 出 者		
	従 前 地	総数(人)	構成比(%)	転 出 先	総数(人)	構成比(%)
1	東京都	6,712	19.9	東京都	7,358	20.8
2	国 外	4,481	13.3	国 外	4,139	11.7
3	神奈川県	2,858	8.5	神奈川県	3,180	9.0
4	愛 知 県	2,521	7.5	埼 玉 県	2,945	8.3
5	埼 玉 県	2,456	7.3	愛 知 県	2,657	7.5
6	千 葉 県	1,660	4.9	千 葉 県	1,791	5.1
7	新 潟 県	1,127	3.3	群 馬 県	1,192	3.4
8	群 馬 県	1,042	3.1	新 潟 県	1,131	3.2
9	大 阪 府	973	2.9	山 梨 県	1,035	2.9
-	そ の 他	9,857	29.3	そ の 他	10,007	28.2
-	合 計	33,687	100.0	合 計	35,435	100.0

## 転入者数、転出者数ともに20歳～24歳が最も多い

表7 年齢5歳階級別社会動態（県外移動）

（令和2年）

年齢5歳階級別の転入者数をみると、20～24 歳が 6,664 人(19.8%)で最も多く、次いで 25～29 歳 6,177 人(18.3%)、30～34 歳 3,980 人(11.8%)の順となっています。

転出者数は、20～24 歳が 9,834 人(27.8%)で最も多く、次いで 25～29 歳 6,767 人(19.1%)、30～34 歳 3,658 人(10.3%)の順となっています。

増減をみると、転入超過は 0～4 歳が 515 人で最も多く、以下 35～39 歳 447 人、40～44 歳 435 人の順となっています。

一方、転出超過は 20～24 歳が 3,170 人で最も多く、以下 15～19 歳 1,462 人、25～29 歳 590 人の順となっています。

（表7）

年齢階級 (歳)	転入者数		転出者数		増減
	a (人)	構成比(%)	b (人)	構成比(%)	a-b (人)
0～4	1,792	5.3	1,277	3.6	515
5～9	1,127	3.3	844	2.4	283
10～14	563	1.7	516	1.5	47
15～19	1,512	4.5	2,974	8.4	△ 1,462
うち18～19	1,266	3.8	2,605	7.4	△ 1,339
20～24	6,664	19.8	9,834	27.8	△ 3,170
25～29	6,177	18.3	6,767	19.1	△ 590
30～34	3,980	11.8	3,658	10.3	322
35～39	2,830	8.4	2,383	6.7	447
40～44	2,137	6.3	1,702	4.8	435
45～49	1,792	5.3	1,577	4.5	215
50～54	1,345	4.0	1,225	3.5	120
55～59	1,021	3.0	807	2.3	214
60～64	855	2.5	536	1.5	319
65～69	609	1.8	377	1.1	232
70～74	470	1.4	292	0.8	178
75～79	298	0.9	205	0.6	93
80以上	515	1.5	461	1.3	54
計	33,687	100.0	35,435	100.0	△ 1,748

## 20～24 歳の女性の転出超過が最も多い

年齢5歳階級別の社会動態を男女別にみると、転入者数、転出者数ともに男性が多くなっています。

一方で、増減をみると、男性の△588 人に対して、女性が△1,160 人となっており、女性の転出超過数が大きくなっています。

15～19 歳、20～24 歳、25～29 歳の3区分については、男女ともに転出超過となっていますが、特に、20～24 歳の女性の転出超過が 1,953 人で最も多くなっています。

(表8)

表8 年齢5歳階級別社会動態(県外移動・男女別)

(令和2年)

年齢階級 (歳)	転入者数(人)		転出者数(人)		増減(人)	
	男	女	男	女	男	女
0～4	918	874	652	625	266	249
5～9	591	536	435	409	156	127
10～14	279	284	272	244	7	40
15～19	826	686	1,639	1,335	△ 813	△ 649
うち18～19	702	564	1,447	1,158	△ 745	△ 594
20～24	3,943	2,721	5,160	4,674	△ 1,217	△ 1,953
25～29	3,585	2,592	3,979	2,788	△ 394	△ 196
30～34	2,271	1,709	2,103	1,555	168	154
35～39	1,578	1,252	1,362	1,021	216	231
40～44	1,216	921	982	720	234	201
45～49	1,055	737	940	637	115	100
50～54	821	524	754	471	67	53
55～59	595	426	508	299	87	127
60～64	520	335	333	203	187	132
65～69	339	270	200	177	139	93
70～74	258	212	146	146	112	66
75～79	126	172	85	120	41	52
80以上	174	341	133	328	41	13
計	19,095	14,592	19,683	15,752	△ 588	△ 1,160